

会 議 録

(1)実施概要

会議名称	第9回泉大津市子ども・子育て会議	
開催日時	平成 29 年 9 月 8 日（金）午前 10 時 00 分～正午	
開催場所	泉大津市立総合福祉センター3階 第1会議室	
出席委員 (名簿順。敬称略)	長瀬委員、久委員、村田委員、大橋委員、阪上委員、 田中委員、植野委員、内藤委員、生田委員、安里委員、 平委員、秦委員、納谷委員 (欠席) 川西委員、長谷委員 <p style="text-align: right;">全 15 名のうち、出席 13 名、欠席 2 名</p>	
事務局	三井健康福祉部長、朝尾教育部長、松下社会福祉事務所長、藤原こども未来課長、木村教育総務課長、川口生涯学習課長、竹内健康推進課長、向井指導課長、森口障がい福祉課長、谷本こども未来課長補佐、こども未来課、伊加井こども支援係長、岡田、早野	
会議次第	1. 開会 2. 副会長挨拶 3. 案件 ①泉大津市子ども・子育て会議委員改選について ②いずみおおつ子ども未来プランに関する中間年の見直しについて ③泉大津市の子育て環境の現状について ④いずみおおつ子ども未来プラン推進施策の実施状況について ⑤泉大津市立浜幼稚園の今後の運営等について ⑥（仮称）えびす認定こども園について ⑦その他 4. 閉会	
会議資料	【配付資料】 資料 1 泉大津市子ども・子育て会議委員改選について 資料 2 いずみおおつ子ども未来プランに関する中間年の見直しについて 資料 3 (H29)泉大津市の子育て環境の現状について 資料 4 (H29)いずみおおつ子ども未来プラン推進施策の実施状況について 資料 5 泉大津市立浜幼稚園の今後の運営等について（報告） 資料 6 （仮称）えびす認定こども園 概要	
会議の公開／非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開（傍聴者数 3 名）	<input type="checkbox"/> 非公開
会議録の作成方法	<input checked="" type="checkbox"/> 要点記録	<input type="checkbox"/> 全文記録
その他の必要事項	なし	

(2)審議概要(意見要旨、審議経過、決定事項等)

事務局による進行	<p>1. 開会（記録省略）</p> <p>2. 案件</p> <p>①泉大津市子ども・子育て会議委員改選について</p> <p>②いずみおおつ子ども未来プランに関する中間年の見直しについて</p> <p>③泉大津市の子育て環境の現状について</p> <p>④いずみおおつ子ども未来プラン推進施策の実施状況について</p> <p>⑤泉大津市立浜幼稚園の今後の運営等について</p> <p>⑥（仮称）えびす認定こども園について</p> <p>※事務局より上記を説明（記録省略）</p>
<p>会長</p> <p>事務局</p> <p>会長</p> <p>事務局</p> <p>会長</p> <p>委員</p> <p>事務局</p> <p>会長</p> <p>委員</p> <p>事務局</p> <p>委員</p> <p>事務局</p> <p>会長</p> <p>委員</p>	<p>◇事務局は案件①について説明してください。</p> <p>●事務局から案件①説明。</p> <p>◇案件①について、事務局から説明がありました。この件について、何か質疑ありますか。質疑はないようですので、案件②に移りたいと思います。事務局は案件②について説明してください。</p> <p>●事務局から案件②説明。</p> <p>◇案件②について、事務局から説明がありました。この件について、何か質疑ありますか。</p> <p>◇教育保育施設の需要量及び地域子ども・子育て支援事業計画値比較表（資料2）に記載されているもので乖離が大きいものについて、要因があれば説明願います。</p> <p>●1号認定について、平成30年度の計画値に比べ推計値は150増加しておりますが、これについては、くすのき認定こども園、かみじょう認定こども園が幼稚園から認定こども園になった際に1号認定が増えていることが要因として考えられます。一時預かり事業（幼稚園在園児）について、平成27年度は公立幼稚園のみが実施していましたが、民間保育所が幼保連携型認定こども園に移行したことに伴い、幼稚園型の一時預かりを実施する民間認定こども園が増えてきたことが増加の要因と思われる。地域子育て支援拠点事業については、計画策定時から実施ヶ所数が増加しているため、推計値も増加しています。</p> <p>◇1号認定のニーズがこれだけあるというのは、これまでの幼稚園教育に対する信頼感に基づくものかと思われます。</p> <p>◇1号認定の計画値について、平成31年度の計画値が平成30年度から減少している要因について、2号認定、3号認定の増減要因について説明願います。</p> <p>●いずみおおつ子ども未来プラン策定時、人口動態、幼稚園児数の推移等を勘案して、平成27年度～平成31年度の計画値を算出しました。見直し後の推計値については、平成27年、28年の人口推移、利用実績等に基づき算出しました。1号認定について、見直し後の推計値は150人の増となっておりますが、受入れ可能な人数となっております。</p> <p>◇一時預かり事業（幼稚園型以外）とはこういった内容のものか説明願います。</p> <p>●未就園児を認定こども園等で、半日、1日単位で預かる事業です。</p> <p>◇幼稚園、保育所、私立認定こども園の様子についてお聞かせ下さい。</p> <p>◇戒幼稚園について、（仮称）えびす認定こども園の整備に伴い、在園児の保護者の方々の中には来年度以降の働き方について悩まれている方もいらっしゃると思いますので、認定こども園は多様な働き方に対応できる施設であることを実感しています。</p> <p>◇要保育所では多くの方が延長保育等を利用されています。園区が無くなったこと、保育所、幼稚園、認定こども園が同じ制服を使用するようになったことで、入所申請の際に選択肢が広がり喜んで頂けているかと思われます。</p> <p>◇みらいずこども園についてですが、平成27年に保育所から現在のみらいずこども園に移行しました。元々は長時間利用の方のみでしたが、母親の妊娠に伴って短時間部に移られ</p>

会長 事務局	<p>たり、出産後の子育てが落ち着いた後に長時間部に戻られる等、保護者の方々の状況に応じた利用をしていただけており、より便利な施設になったと感じております。</p> <p>◇案件③に移りたいと思います。事務局は案件③について説明してください。</p> <p>●事務局から案件③説明。</p>
会長 委員	<p>◇案件③について、事務局から説明がありました。この件について、何か質疑ありますか。</p> <p>◇【就学前児童・小学生の人数の推計】について（資料3-P, 4）。全国的に子どもの人数が減少傾向にある中、平成29年度までは計画値に比べ実績値が増えている部分が多く見られます。推計値の増加見直しには様々な要因があると思われませんが、子育て施策が一定の評価を受けていると解釈することもできるかと思えます。市としてどのように考えているか、説明願います。また、平成30、31年度の見直し後の推計値の算出方法について、説明願います。</p>
事務局	<p>●実務を通じて、出生数の増加を実感しております。</p> <p>●推計値の算出について、平成27年度～平成29年度の各年齢毎の児童数の増減割合に平成29年4月時点の児童数を乗じることで算出しました。</p>
委員	<p>◇推計値の見直しを受けて、何か特別な施策を検討していますか。5歳から6歳に上がる時に児童数が減少しているのは、小学校に入学するタイミングで他市に転出している可能性が考えられます。小学校の教育環境をより充実させることができれば、こうした転出も少なくなると思われるので、充実させるべき施策を検討していただければと思います。</p>
会長 委員	<p>◇推計値を活用した、施策の分析、検討をお願いします。</p> <p>◇平成27年度～平成29年度の6歳～11歳の合計児童数の計画値と実績値にあまり大きな乖離は見られません。0歳～5歳の合計は計画値に比べて実績値が概ね100人程増えており、喜ばしいことだと思われれます。子ども・子育て支援に関する本市の取り組みの結果が表れているのかと思われれます。右肩下がりの推計値についても、施策によって右肩上がりに変えていくような意気込みがあればより良いかと思えます。</p>
委員	<p>◇【教育・保育施設及びサービスの利用状況】幼稚園の利用者数について（資料3-P, 7）、平成29年度市内幼稚園利用者数計が平成28年度比約150人減少している理由、今後の見込について説明願います。</p>
事務局	<p>●保育所や多様なニーズに対応できる認定こども園に保護者のニーズが移行しているのかと思われれます。</p>
委員 事務局	<p>◇幼稚園児数が減少傾向にある中、今後の幼稚園の方向性について説明願います。</p> <p>●今後、検討委員会を立ち上げて、適切な教育、保育環境の在り方についての方向性を考える予定です。</p>
委員	<p>◇【教育・保育施設の需要量及び提供体制】について（資料3-P, 12）。待機児童数の有無について説明願います。</p>
事務局	<p>●9月1日時点での待機児童数は10名。10名の内訳として、求職中、フルタイムで就労中の方以外も待機児童に含まれていること等から、待機児童については一定の解消が図られているものと考えています。</p>
会長	<p>◇元々の定員を超える提供も見られますが、子ども達にとって負担の無い状況という認識でよろしいですか。</p>
事務局	<p>●面積要件、保育士、職員等の配置基準を満たした上での受け入れであるため、負担は無いと考えています。</p>
会長	<p>◇1歳児の人数が多い状況の中で、環境整備を図って受入れを行っていただいているものかと思われれます。</p>
委員	<p>◇【子育て支援事業の利用状況】について（資料3-P, 8）、⑤おやこ広場（つどいの広場）事業の延べ利用者数が平成27年度から28年度にかけて大幅に減少していますが、市民会</p>

事務局	<p>館閉館に伴って Mocomoco が浜幼稚園に移転したことが一因として考えられますか。</p> <p>●市民会館に比べて、浜幼稚園移転後の広場の面積が小さくなっていることが、一因として考えられます。</p>
会長 事務局 委員	<p>◇案件④に移りたいと思います。事務局は案件④について説明してください。</p> <p>●事務局から案件④説明。</p> <p>◇各年齢層がふれあえる機会や場づくりについて（資料 4-P, 8）、保幼小中の交流の在り方について説明願います。</p>
事務局	<p>◇幼稚園の就園奨励について（資料 4-P, 22）、今後も引き続き実施をお願いします。</p> <p>●新制度への移行に伴い、保育所、幼稚園、認定こども園で同じような保育、教育が受けられるよう、幼児教育フォーラムをこども未来課と教育委員会で開催し、可能な限り、幼稚園、保育所の職員が同じ研修を受けたりする中で、接続期の重要性について再認識しました。保幼小体系化プログラム作成検討委員会を 3 年前に立ち上げ、幼稚園のアプローチカリキュラム、小学校 1 年前期のスタートカリキュラムの研究を実施しております。2 年前に泉大津市スタートカリキュラムリーフレットを配布し、各小学校が現状に応じたスタートカリキュラムを作成しました。今後も引き続き、接続期を大切にしたいと考えております。専門家や現場の先生、市職員が意見を交わす会議を年間 10 回程度開催しており、今後も継続する予定です。小中連携については、9 年単位で子ども達を支えていくべきとの考えに基づいた教育を実施しています。例えば、キャリア教育は中学校区で幼稚園から中学校 3 年生までの子ども像を見据えて、各年齢の発達段階に応じた取組みをしています。また、中学校とその中学校区の小学校とで連携したり、児童会と生徒会で連携したり、中学校の教師が小学校に赴き授業をする等の交流を充実させる方向で考えております。泉大津高校、和泉総合高校、信太高校、伯太高校、と隣接中高連絡会を立ち上げました。昨年より和泉支援学校も加入し、中学校と高校の先生がお互いの授業を見学したり、高校生が中学校に高校の紹介に来る、といったことも行っています。保幼小中高に可能な限り切れ目が生じないように取り組んでおります。</p>
委員	◇市全体での取組みですか。
事務局	●全体の大きな方向性を示した上で、各中学校区がそれに基づいたより具体的な取組を行っております。中学校と高校の交流は市全体での取組みとなります。
事務局 委員	<p>●幼稚園の就園奨励について、現状は維持していきたいと考えております。</p> <p>◇保幼小の連携について、公立のみでなく私立の園も加えて頂きたいと思います。年に 1, 2 回でも園長、校長が集まって意見交換し、泉大津市の取組みを情報共有できれば、連携強化が図れるかと思われま。</p>
事務局	●全国的には公立、私立が一緒の方向性ではありますが、先ずは一緒に集まって顔の見える関係づくりから始めたいと考えております。
委員	<p>◇小学生の放課後の生活の場の確保について（資料 4-P, 8）、生涯学習課による安全な居場所作りとして、仲よし学級も含めて様々な行事を実施して頂きありがとうございます。</p> <p>◇仲よし学級の充実について（資料 4-P, 20）、地域の方々や様々な団体と連携をとりながら実施していただいたり、指導員の研修等にも協力頂き、ありがとうございます。</p> <p>◇仲よし学級の利用状況について（資料 3-P, 11）、特に低学年の利用率が高いかと思われま。</p> <p>条南小学校の 1 年生の 2 人に 1 人が仲よし学級を利用している状況です。仲よし学級は全ての学年が同じ空間で過ごすこととなり、少し規模の小さい小学校といったイメージをもっていただけると想像し易いかと思います。気候に恵まれた時は屋外で遊ぶこともありますが、基本的には過密な空間で過ごすこととなり、指導員も頑張ってくれていますが限界があるかと思われま。</p> <p>指導員の増員も含めた環境整備をお願いします。</p>
事務局	●小学生の児童数は年々減少していますが、仲よし学級入会者数は年々増加しております。

会長 委員	<p>平成 27 年に法改正があり、受入れ対象が小学校 4 年生までから 6 年生まで拡充となりました。ほとんどの小学校が約 100 名の児童を受け入れております。2 クラス分の空間に約 100 名が入る過密な状況である一方で、児童 1 人当たりの面積が 1, 6 m²と法で定められております。平成 31 年度時限として現状を改善する必要があり、各小学校の空き室状況等にも配慮しつつ小学校と連携して対応していきたいと考えております。また、児童への対応については指導員のみでは限界があるため担任との連携も行っております。</p> <p>◇物的環境、人的環境の整備を図ると同時に小学校とも連携して頂ければと思います。</p> <p>◇発達障がい支援体制の充実について（資料 4-P, 30）、様々な支援を実施して頂けていることを有りがたく思います。就学相談、年長から小学校 1 年生の受入れについて、保護者が気づいていなくても児童本人が困っている場合が多々ある事、園の先生が保護者に個別にお便りを渡したりすることが保護者間で話題に上がることを原因として、発達相談に結びつかない事例を現場で多く見えています。全体に相談のお便りを発行した上で個別に対応して頂ければ、より相談し易くなり、子どもの多様性への保護者の受容も進むと感じています。</p>
事務局	<p>◇障がい児教育推進事業の充実について（資料 4-P, 17）、小学校に泉大津市立病院による巡回発達相談があるかと思われませんが、回数の少なさを感じております。多くの心理士に入って頂き、個別に保護者の悩みを聴き取り先生に伝えてもらうことによって、先生と保護者の相互理解を深められるような、体制整備を望みます。</p> <p>●広報等で心配な方は相談に来て下さいと声かけしております。複数回の相談を経た上で、就学支援委員会で話し合っておりますが、相談件数が増加傾向にあることから、病院と教育委員会での連携を図り、少しでも心配であれば相談に来ていただけるように体制整備しております。専門家の意見も取り入れながら、対応したいと考えております。ここ数年の間に、小学校の支援学級数は大幅に増加しており、今後においても本市は支援を必要とする子ども達を支援していきたいと考えております。</p>
委員	<p>●平成 27 年から保健センターに発達支援担当を設置し、現在は 4 名の発達相談員がいます。今年度から、校区担当の心理士が小学校に訪問して、保護者と先生の面談時に同席したり、保護者同意の上で小学校の先生が保健センターに来て、学校内での対応方法に対する相談を受けるといったことを実施しております。小学校の先生と、発達相談員の顔が見える関係を構築しつつあり、今後も引き続き学校との連携を重視したいと考えております。</p> <p>◇泉大津市要保護児童対策地域協議会の推進について（資料 4-P, 2）、和泉乳児院、和泉幼児院では虐待を受けた子ども達の入所が増加傾向にあります。児童虐待に対しては要保護児童対策地域協議会が中心となって対応しているかと思われませんが、乳児や幼児に関しては常日頃注意しておかないと、虐待死につながりかねないので、未然に把握して支援してもらいたいと思います。</p>
事務局	<p>●児童虐待の未然防止の重要性は認識しております。特に 3 歳未満の危険性が高いこともあり、園長所長会等を通じて、関係職員の通告義務に関することや対応の在り方について改めて説明して徹底してもらうことで、未然防止に努めております。</p>
委員	<p>◇泉大津市独自のユニークな事業があっても良いのかと思われませんが、未就学児と就学児の連携に関して、大阪市東淀川区にある菅原小学校では小学校内につどいの広場事業があります。小学生がつどいの広場を覗きに来ることで、乳幼児と小学生のつながりが生まれます。小学生からは「私達もこうして大きくなってきたんかなあ。」といった声もあがっています。つどいの広場事業を小学校の中で実施することによって相乗効果が生まれた事例です。</p> <p>三重県のある高校では、地域の保育所とタイアップして、高校 1 年時に一人の生徒が一人の児童を担当する取り組みがあります。最初は児童との接し方が分からなかった高校生</p>

	<p>が1年経過するとスキンシップがとれるようになり、高校生の心情面に変化が生じ、勉強にも良い影響を与えています。こういった組み合わせによる取組みを今後検討していただければと思います。また、子ども向けの行事を実施することが多いかと思われますが、子どもと大人を一緒にした行事も良いかと思われます。尼崎市では「みんなのセミナー」が開始しました。8月の第一土、日曜に高校の空き教室を利用して市民の生徒を対象に、市民が講師を務め生涯学習の講座を行っています。平成29年度は約300講座、2日間で延べ約5,100人が参加しました。大人向けの講座、子ども向けの講座がそれぞれあり、子ども連れで参加する保護者が自分達のために講座を受けることもできます。高校生が講師を務めたり、実行委員会に参加することで、高校生のボランティア経験にもつながっています。様々な世代が複合して、みんなが集まってみんなで盛り上げていく様な試みを泉大津市でも増やしていただければと思います。生駒市では電子版の母子手帳を活用し、登録した市民に対し、市より情報発信が可能となっております。こういった取組みに関しても情報収集の上、泉大津市で活かしていただければと思います。</p>
<p>会長 事務局 委員</p>	<p>◇案件⑤に移りたいと思います。事務局は案件⑤について説明してください。</p> <p>●事務局から案件⑤説明。</p> <p>◇浜幼稚園について、他の就学前施設と統合するとのことですが、具体的にどの施設と統合するのか説明願います。</p> <p>◇えびす認定こども園開園後も公立の認定こども園設置の計画があるのか、説明願います。</p> <p>◇浜、条東、戎、要保育所の保護者は、今後保育所がどうなっていくのか非常に不安を感じております。可能な限り早急に検討委員会を立ちあげていただき、公立保育所の今後の方向性を示していただくとともに、保護者が安心して子ども達を預けて働けるようにしてもらいたいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>●他の就学前施設との統合について、本市には園区が無いことから、各ご家庭の事情に応じた園を選ぶことが可能となっております。旭幼稚園、条南幼稚園、かみじょう認定こども園、平成30年度に開園を予定している（仮称）えびす認定こども園が浜幼稚園の近隣の園になるかと思われます。特定の1園を指して統合とするのではなく、各ご家庭の事業に応じて複数の園に入園の選択肢があるといった意味で統合と表現しております。えびす認定こども園を開園予定しておりますが、それ以降の認定こども園化については、検討事項と考えております。検討委員会については、今年度中に設置し、来年度中に計画をたてる予定です。</p>
<p>会長</p>	<p>◇検討委員会を設置し、保護者にとって不安の無いようにしていただくことが大切かと思われます。</p> <p>◇少人数教育の良さはあるかと思われますが、子どもが子どもの中で育ちあうといったことを考えると、5名での教育という現状に対しては検討せざるをえないかと思います。保護者が不安になれば、子ども達も不安になるので、保護者が安心して子ども達がより良い保育、教育を受けられるよう検討委員会で議論して頂き、市の計画に結び付けていただきたいと思います。子ども・子育て会議の委員の皆様に対しても、ご協力願いたいと思います。</p> <p>◇案件⑥に移りたいと思います。事務局は案件⑥について説明してください。</p>
<p>事務局 委員</p>	<p>●事務局から案件⑥説明。</p> <p>◇（仮称）えびす認定こども園の開園に向けて、昨年度より宇多保育所と戎幼稚園では合同教室を多く実施しています。子ども達が一緒になった時に不安にならないように、運動会をはじめ各種行事を合同で実施しております。保護者向け説明会は複数回実施し、保護者から安全面に対する配慮を求める声が多くありました。騒音が大きい工事は夏休み期間中に実施しました。園庭の3分の1は工事区域のため、使用できる園庭は狭くなっていますが、リズム室を活用する等して工夫しながら運営しております。普段子ども達は重機</p>

	<p>を目にする機会が少ないため、貴重な経験になっております。また、認定こども園開園に向けての保護者の関心が高く、見学も増えています。今後は認定こども園化に伴い、おやこ広場、一時預かり事業、緊急一時預かり等の子育て支援サービスが受けられるようになります。</p>
<p>会長</p>	<p>◇より良い認定こども園の開園に向けて、引き続き努めて下さい。事務局から案件⑦の「その他」について何かありますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>●ありません。</p>
<p>会長</p>	<p>◇次第については終了しました。本日の会議はこれにて閉会いたします。ありがとうございました。</p>
<p>事務局</p>	<p>●次回の子ども・子育て会議は平成30年度に開催させていただきたく存じます。改めて、日程調整の連絡をさせていただきますので、よろしく願います。これもちまして、第9回泉大津市子ども・子育て会議を終了いたします。ありがとうございました。</p>
	<p>以上</p>